

日伯外交関係樹立120周年及び移住107周年に関する連邦議会公聴会
梅田大使ご挨拶案

2015年6月18日

ニシモリ議長，外交国防委員会委員，伯日議連及び伯日議院戦線各議員，ブルーメル在ペロオリゾンチ名誉総領事，オデシル在サルバドール名誉総領事，各日系団体関係者の皆様，連邦議会下院関係者の皆様。

本日は，各位ご出席の下，日本人移住107周年及び日伯外交関係樹立120周年を記念する連邦議会公聴会を開催いただき，心より御礼申し上げます。

ブルーメル名誉総領事及びオデシル名誉総領事におかれましては，自らのご経験に基づき，両国の協力関係に関し大変素晴らしいお話しをして頂き，御礼申し上げます。

日本とブラジルは，1895年に外交関係を樹立して以来，120年にわたり，協力関係を深めてきました。また，ちょうど107年前の6月18日に，最初の日本人移住者を乗せた笠戸丸がサントス港に到着しました。当初，移住者の方々は，生活環境も言葉も全く異なるこの土地で大変なご苦勞を重ねられました。しかしながら，彼らは夢と希望を忘れることなく，勤勉を積み重ね，その子孫の方々は今やブラジル社会の重要な一員となっています。

ブラジルに190万人の日系人コミュニティー，日本に19万人のブラジル人コミュニティーが存在し，両国間には深い人的絆があります。また，多くの日系人の方々がブラジル人としてブラジルの様々な分野でご活躍し，ブラジルの発展に貢献されていることを，私は日本国大使として大変誇りに思っております。

日本とブラジルは，これまで，セラード農業開発事業（PRODECER）をはじめ，ウジミナス，セニブラ，イシブラス，アマゾンアルミ，カラジャス開発に代表される日伯共同プロジェクトを力を合わせて実現してきました。

また日本は，ブラジルとの協力において，特に人材育成に重点を置いてきました。JICAの研修生として訪日したブラジル人は1万人に上り，ブラジルの様々な分野でご活躍されています。また，PRODECER事業においても，多くの日本とブラジルの専門家が共に働きました。この関連で，専門家としてブラジルに赴任し，志半ばで病により他界された故小林正人氏のお墓が，プラナウチナ市にあるEMBRAPAのセラード農牧研究所に1981年に建立されています。現在もきれいに維持，管理されており，ブラジルの関係者の皆様の温かい友情に，心より御礼申し上げます。

我が国は，今後も人材育成に重点をおいてブラジルの発展に協力したい考えです。昨年7月の訪伯において安倍総理は，今後3年間で，造船，医療，保健，

治安、農業、産業廃棄物等の7分野における900名の研修生受け入れを発表しました。教育分野では、「国境なき科学」計画や日本政府の奨学金により日本に留学するブラジル人留学生の拡充に努めています。

また、我が国は農業インフラ・都市インフラに大きな関心があります。治安面では法務省と協力して、コミュニティ警察「交番」の全国展開を推進しています。また、環境分野においては、アマゾンの森林再生や持続的な開発を目指したアグロフォレストリーを推進しています。

更に、我が国は、日系社会との連携強化を通じ、ブラジル社会の発展に貢献したい考えです。例えば、日系病院を通じたブラジルの医療・保健分野への貢献や、ボランティアの派遣を通じた柔道や野球の振興です。

外交関係樹立120周年を記念する本年、9月12日にサンパウロで開催される花火祭り、日伯共同プロジェクト展等、ブラジル国内で500を超えるイベントが開催されます。当地ブラジリアでも、今週末にブラジリア日本祭りが開催されます。

今年は日本からの皇族のご訪伯、ルセーフ大統領の訪日等、ハイレベルでの人的交流も期待されます。来年は、リオデジャネイロでオリンピック・パラリンピックが開催され、2020年に東京大会を開催する東京とリオの連携が我々の絆を一層深めることとなります。

日本とブラジルは、自由、民主主義、基本的人権、法の支配といった基本的価値を共有している重要なパートナーです。昨年、安倍総理は、サンパウロでの対中南米政策スピーチにおいて、ブラジル及び中南米とともに、「プログレシール・ジュントス、リデラール・ジュントス、インスピラール・ジュントス」という3つの「ジュントス」を宣言されました。今後も、我が国はブラジルと共に協力しつつ、3つの「ジュントス」を模索していきたいと思っております。引き続き、皆様よりご支援頂けますと幸いです。

最後に、本日の式典開催にご協力いただきました関係者の皆様に感謝を申し上げるとともに、今後の日伯協力関係の一層の拡大を祈念して、私の挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。 (了)